

平成30年度 伊那北高等学校 評価表

教育目標		中・長期的目標	
1 平和を希求し、真理と正義を探究する資質を養う。 2 躰如として学業に専らむ。 3 自主・自立の精神を養い、個性の伸長をはかる。 4 自由と責任を重んじ、努力を惜しまない態度を養う。		1 学習・部活動などに主体的に取り組む、将来を自ら切り拓く力をもった生徒の育成をめざす。 2 地域の実情、要望を正しく理解し、伊那北高校の将来を見据えて施設・設備を含めたビジョンを明らかにする。	
		重点目標	
		1 「いじめ・体罰」のない安心安全な教育環境を整える。 2 伸びる力を伸ばすために「主体的、対話的で深い学び」を実現する授業と教育課程の改善を進める。 3 外部との連携を図り、「社会に開かれた」学校・教育課程づくりをめざす。	

領域	対象	重点目標	評価項目	評価の観点	具体的方法	評価の主な材料	成果と課題	改善策・向上策	校務分掌	
教育活動	進路・学習に関わる指導	2	2	進路意識の醸成	・生徒自ら課題を見つけ積極的に取り組み、進路に対する意識を高めることができたか。	・総合学習での、自ら課題を見つけ活動し、発信する取り組みを行う。 ・体験活動、模擬授業への積極的取り組みを促す。	生徒アンケート	・総合的な学習の時間においては、講師に積極的に質問をしたり、自らインタビューをしたりアンケートを取ったりする等、自ら課題を見つけ活動することができた。また、発表会においても作成したパワーポイントを用いながら堂々と成果を発表できた。一方で、自分の進路・生き方との関連が十分に図られなかった生徒もいたと思われることが課題である。	・次年度1年生は新学習指導要領の先行実施により、総合的な学習の時間が始まる。理数科課題研究、次年度2年生の総合的な学習の時間も含め、自分の進路・生き方との関連がより深まるような、より有効なカリキュラム作りを検討していきたい。	進路指導 生徒会
			2	進路実現	・進路指導計画を作成し、生徒・保護者の納得できる進路指導ができたか。	・生徒・保護者との連携を深め、自己の進路志望を明らかにする。 ・第一志望の進路実現に向けての計画を作り実現する。 ・定期考査や外部模試等の結果を分析し、課題を共有する。	・保護者アンケート(満足度)	・面接週間はもちろん、日常の中で適宜面接相談を実施。個々の生徒の指導に合わせ指導ができた。 ・全職員での指導を基本とし、小論文・面接等の指導がなされた。 ・模試結果を職員全体にデータ共有できるような体制にし、授業や補習に活かし学力をつけさせるように活かせた。 ・大学入学共通テスト試行テストの分析を職員に依頼し、今後求められる学力について、個々の教員が今後の対応について考えるきっかけとした。	・生徒実態をよく見極め、実情にあった指導をしていく。また各行事の目的・意義を明確にしながら実行するようしていきたい。 ・個々の生徒に対し職員全体で指導に当たる体制を維持していきたい。 ・模試の事後指導を継続していく。 ・新入試に対し、情報収集を行い、対応できるようにしていきたい。	進路指導
		2	授業改善	・授業評価や学力分析を通して授業改善を行うことができたか。 ・解りやすく学習意欲を高める授業の工夫ができたか。	・校内外に向けて授業を公開するについて研修を行う。 ・授業評価の結果得られた課題を明らかにし、改善に活かす。 ・ICTを活用した授業改善の工夫をする。	授業評価	・キャリアアップ研修、土曜公開授業の他、昨年度実施した互見授業の実施時間を1回から2回(春・秋)へと増やすことで、授業改善に向けた取り組みを行った。 ・引き続き「匿名性を担保した授業評価」を実施した。集計結果は各職員・各教科に提供し、考察・検討した。より改善された授業に努めている。 ・RESAS事業で各HR教室等に導入された電子黒板であるが、昨年以上に職員の間で浸透し、様々な場面で活用された。また、総合的な学習の時間等でタブレット等を活用しながら生徒が学習活動を進める場面も見られた。	・互見授業の充実を図ると共に、新学習指導要領の主旨に基づいた授業改善・授業作りを進めていきたい。 ・引き続き授業評価を行い、結果を授業改善に活かしていく。 ・ICTの有効な活用についてさらに研究を進めていきたい。	学習指導	
	2	家庭学習指導	・授業を中心とした家庭学習が行える生活習慣を定着させることができたか。	・予習復習や課題への取り組みについて点検し、個人面談などを通して適切な指導を行う。 ・「学習時間調査」を実施し、生徒の生活実態を把握し、家庭学習の増加を図る。	学習時間調査	・各教科で予習復習や課題の取り組みについて点検を行い、適切な指導を行った。また、例年同様、全体としては5月、10月の2回、家庭学習時間及び生活習慣調査を実施し、生徒の実態把握を行った。年間行事予定に4回の面談・懇談期間を設け、学習態勢への指導や相談等を適切に行なった。 ・一方で、学習時間調査の方法や集計など、よりよい形になるように検討する必要がある。	・今後も学習時間調査や面談を実施し、生徒の生活習慣の実態把握に努めると共に、きめ細やかな指導を継続していく。 ・学習時間調査のよりよいあり方について検討していく。	学習指導		
	2	読書指導	・読書活動を活発にすることができたか。 ・主体的、自発的な学習を支えることができたか。	・LHRを利用した「読書の時間」の実施。 ・本や情報を提供し、各種イベントを通して、読書の楽しさ・意義を共有する手助けを行っていく。 ・授業・課題研究・クラブ活動等との連携を深める。	図書館利用数 図書・貸出数	・一人平均貸出し冊数は4.1冊とやや減少気味であった。 ・夏休みの読書者を出発前に呼び付けたいが、引き続きの課題である。北4Fは広い。 ・本祭前後で、第2図書館を含め、積極的利用があった。 ・ピポロバルと併せて企画、その他図書委員会でも企画を行った。 ・企画は良いと自覚しているが、図書館利用者の増加までは至らなかった。 ・国語科・英語科・家庭科・保健体育科・芸術等授業、調べ学習での利用が見られ、教員の利用も多かった。	・引き続き広報、PR活動の充実を図りたい。また来館生徒への声かけ、呼びかけで利用の輪を広げたい。 ・入試の改革や、探究の時間に向け、図書館は重要性を増すと考えられる。授業その他で図書館利用促進の働きかけをしたい。	図書指導		
	1	生徒体制の充実	・関係職員・スクールカウンセラーが連携し、一貫した方針をもって、個々の生徒を支援することができたか。	・スクールカウンセラーとの情報交換を密にし、関係職員が共通認識を持って適切な支援を行う。 ・職員との研修会を実施して特別支援教育等の理解を深め、実践に活かす。		・生徒の情報共有について、定期的な係会を開き状況把握や支援方法について検討することができた。 ・スクールカウンセラーは、今年度重点派遣校となり、72時間の相談時間が割り振られた。生徒・保護者の必要に応じて積極的に利用し、フルに活用することができた。 ・ケース会議や校外の専門家の支援とアドバイスをいただいたが、必要とされる生徒や保護者へカウンセリング等の情報を伝え、利用するよう促していきたい。	・生徒支援には、職員間の情報共有が重要であり、今後も情報共有を継続する必要がある。 ・特別支援が必要な生徒が増えてきているので、支援体制を見直したい。	特別支援 委員会		
	1	生徒の健康管理・安全	・学校生活における生徒の安全管理について徹底ができたか。	・学校行事を運営する際の安全面で事前チェック(アレルギー表示等)と生徒の指導及び当日の危機対応を行う。 ・交通安全および盗難予防指導の実施と充実を図る。 ・年3回のアンケートと4回の面接週間にて実態の把握に努める。		・昨年度の反省を生かし、ペン祭の出店における食材のアレルギー物質の含有表示を徹底できた。その結果問題は起こらなかった。 ・ペン祭のBF等、小体育館での催し物の際のけが人を防止したい。 ・アンケートを実施し、面接週間の指導に活用できた。 ・昨年と比べ、交通事故件数は減少した。盗難については残念ながら複数回発生してしまっった。	・来年度は、さらに安全性を高めるよう工夫したい。 ・設備の安全性を高めると共に、注意喚起を呼びかけるなど、意識を高めたい。 ・生活アンケートについては、生徒の状況を把握できる部分があるので、継続して実施したい。	生徒保健 指導		
	1	環境への配慮と校舎内	・「エコマネジメント長野」に基づき、ごみの減量と校舎内外の美化などを推進することができたか。	・ごみの減量に努める。 ・日常の清掃の徹底と点検を行う。 ・部室周辺及びトイレ清掃を徹底する。 ・教科ごとに実施している環境教育の内容の体系化を努める。 ・電気・水道使用量の節減に努める。	エコマネジ メント長野の 把握	・日常の清掃活動状況は概ね良好である。部室清掃の回数も増え、学習環境整備への意識は向上しているが、不燃系ゴミなどの搬出が増え、ゴミの減量についてはまだ改善の余地がある。 ・校外美化活動は、昨年度より回数を多く実施した。伊那北駅周辺から学校近隣の通学路の美化活動を通して、地域社会との共生意識を高めることができた。	・ゴミの減量に向けて、環境教育の視点も取り入れ、処理及びゴミ減量に向けた広報活動を引き続き充実させたい。 ・校外美化活動は活動日だけでなく、普段の登下校の際にも通学路や地域の様子を意識させ、日常的な美化意識や地域共生意識の向上につなげていきたい。	エコマネジ メント長野 推進委員		
	3	中学校との連携	・中学生及び保護者、地域の方々に本校の教育活動について理解を深めてもらうことができたか。	・土曜授業公開、入学者選抜説明会(保護者向け)、中学生体験入学を実施する。 ・中学校訪問の実施、視察の受け入れ、中学生向け進路講話への対応を積極的に行う。 ・HPやメール等を通じた情報を随時発信する。	来校者へのアンケート	・土曜授業公開、入学者選抜説明会については計画通りに滞りなく実施できた。中学生体験入学については日程・内容等も含め改善点の検討を進め来年度に活かしていきたい。 ・本年度は上伊那郡内すべての中学校に訪問し、学校説明、入試説明に加え在校生の学校生活の様子等を伝えることができた。中学校保護者視察や中学生向け進路講話についても、日程や内容等を中学校側の要望を十分聞いた上で対応することができた。 ・HP上での紹介やクロスベンチフォレターの地域への配布等を通じ、情報発信に努めることができた。	・体験入学については中学生や中学校側の感想・要望を参考にしつつ、よりよい形になるよう改善していきたい。 ・HPを有効活用しつつ、中学校や地域の方々へ、随時わかりやすい内容の情報発信を継続するよう努めていきたい。	教務		
	学校運営	2	3	2	学校ビジョンの検討	・地域、生徒、保護者のニーズに応える新教育課程となっているか。 ・これからの地域の実情に基づいた、学校ビジョンについて検討することができたか。 ・「大学入学共通テスト」や「高校生のための学びの基礎診断」の実施に向けて、対応できる教育課程の検討ができたか。	将来検討 研修会での 意見集約	・平成31年度入学生から実施される「総合的な探究の時間」についての情報収集及び研究を重ね、3年間で3単位を履修する教育課程に変更した。また理数科については「総合的な探究の時間」の代替科目として「課題研究」を2年間で3単位に変更した。 ・今後の少子化の動向、「学びの改革」、学科改編を睨んだ本校の将来像についての研修会を3回開催し、職員が意見を交換をする機会を設けることができ、モデル校へ公募することになった。 ・高大接続改革、及び新教育課程について、試行調査や発表されている情報に基づいて、進路係とも協力分析を行った。	・今年度までに行なった研修会での先方の意見を参考に委員会でも、より明確な将来像を考え、モデルプランを示し、たたき台として、話し合いをしていく。 ・高大接続改革や新教育課程等の情報収集及び分析を進め、新教育課程の編成や今後の変革に対応できるようにする。	教 育 課 長 委員 会
3				組織運営	・学校評価システムが機能し、課題が克服されたか。	・PTA、HP等を通じて学校の重点目標や評価項目について説明を行う。 ・学校評価委員会、学校関係者評価などを通じて評価システムの改善を図る。	関係者への アンケート	・引き続き、生徒、保護者、学校評議員対象の「匿名性を担保した学校評価」を実施することができた。 ・学校評議員の方々から、さまざまなご意見、提言をお聞きすることができた。	・保護者や学校評議員の方々からいただいた評価について改善及び検討を加えフィードバックしていくことにより、本校の教育活動の向上へと繋げていきたい。また評価内容及び項目については、その改善・実現に向け、その都度全職員で検討してい。	学校 評価 委員